

## 吸水種子低温処理による若掘りゴボウの1～2月どり栽培

[要約] 若掘りゴボウ品種「渡辺早生」は、吸水種子を低温処理して9月下旬に播種し、11月下旬～12月中旬にトンネル被覆を開始すると、1月に収穫できる。2月上旬収穫については、同様の種子処理を行った「てがる」を9月下旬に播種し、11月下旬～1月上旬にトンネル被覆を開始すると可能となる。

担当部署	豊前分場・野菜・水田作チーム			連絡先	0930-23-0163
対象作目	野菜	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

### [背景・ねらい]

若掘りゴボウの県内主要品種「渡辺早生」は、肉質に優れ、特に香りが強いいため、消費者の人気の高いが、収穫期間が11月～12月と4月～5月であり、1月～3月は休眠による地上部の枯死や根の肥大の不良により端境期であった。しかし、当分場では、吸水種子を低温処理し、10月中旬に播種することにより休眠を回避し、2月中旬～3月下旬どりが可能であることを明らかにした（平成12年度後期農業関係試験研究の成果）。今回さらに収穫期を前進化させるための品種、播種時期及びトンネル被覆開始期を明らかにする。（要望機関名：朝倉普(H11)）

### [成果の内容・特徴]

1. 吸水種子を低温処理して9月下旬に播種した「渡辺早生」は、低温により2月上旬～中旬にかけて、生葉数が1枚以下となり、商品性が低下する。一方、同様の処理を行って9月下旬に播種した「てがる」は、1～2月に地上部が枯れずに生葉数を2枚以上確保できる（図1）。
2. 吸水種子を低温処理して9月下旬に播種した「渡辺早生」は、11月下旬からトンネル被覆すると1月上旬中旬に収穫でき、12月中旬からトンネル被覆すると1月中下旬に収穫できる（図2、表1）。
3. 吸水種子を低温処理して9月下旬に播種した「てがる」は、11月下旬からトンネル被覆すると1月中旬～2月上旬まで収穫でき、12月中旬からトンネル被覆すると1月中旬～2月中旬まで収穫できる。さらにトンネル被覆を1月上旬から行うと、2月上旬から収穫できる（図2、表1）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 若掘りゴボウを1～2月どりする際の栽培技術として活用できる。
2. 吸水種子の低温処理方法は平成12年度成果を参照する。
3. 吸水種子低温処理によるゴボウの栽培方法は特許出願中である。

[ 具体的データ ]

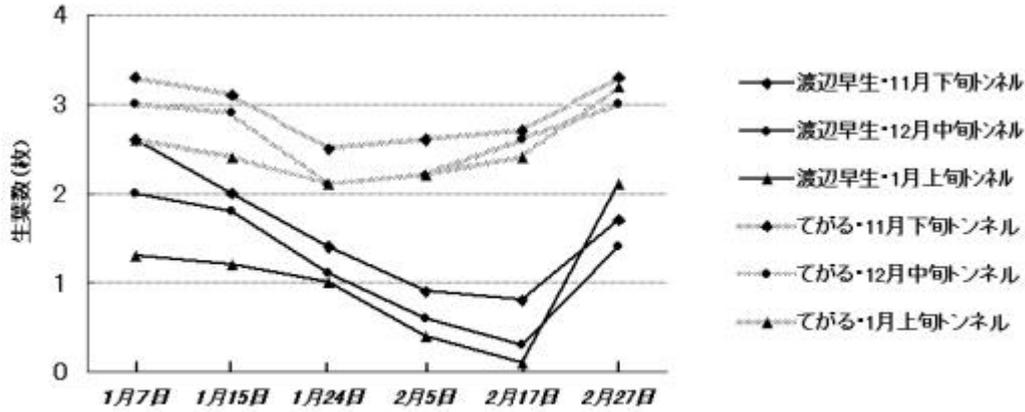


図1. 吸水種子を低温処理した若掘りゴボウの時期別生葉数(平成14年9月25日播種)

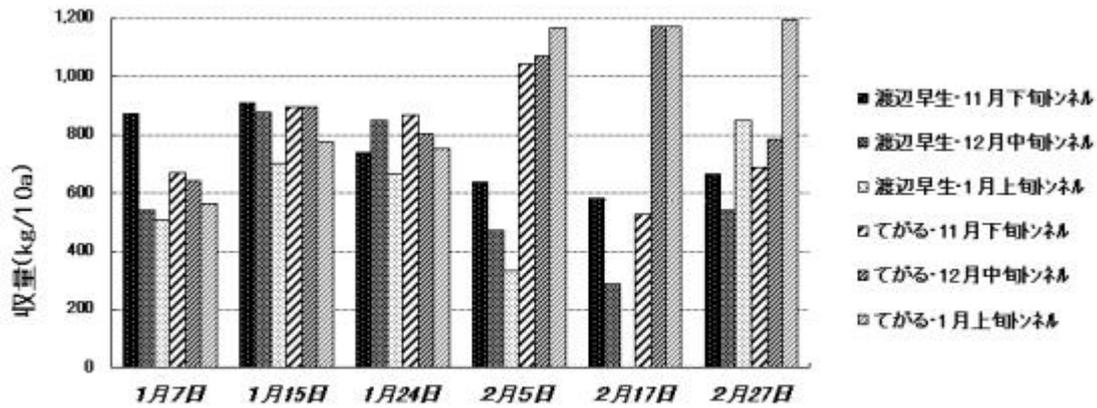


図2. 吸水種子を低温処理した若掘りゴボウの時期別収量(平成14年9月25日播種)

注) 1.収量は、根重 30 g 以上 85 g 未満、生葉数 1.0 枚以上、岐根のないもので算出。  
2.栽植本数：22,200 本/10a (畝幅 150 cm、株間 12 cm、条間 15 cm、4 条植)

表 1 吸水種子低温処理による若掘りゴボウの 1～2 月どり新作業

品 種	9 月		10 月		11 月			12 月			1 月			2 月		
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
渡辺早生																
渡辺早生																
てがる																
てがる																
てがる																

注) 1.作型成立条件は収量 800 kg/10a 以上とした。

2. : 播種、 — : トンネル被覆 // : 収穫

[ その他 ]

研究課題名：若掘りゴボウ吸水種子の低温処理による 1～2 月どり栽培技術の確立と現地実証

予算区分：経常

研究期間：平成 14 年度 (平成 13、14 年)

研究担当者：姫野修一、田中浩平、片山貴雄